

414
A42.5



御巡幸中石川縣ニ於テ沿道地方學事
取調ノ儀ヲ小泉信吉中上川彦次郎ニ被命候
ニ付該縣以南ノ實況視察別紙報告書差
出候間供

高覽候也

明治十一年十一月

太政官
少書記官谷森真男

大隈參議殿

大隈正十一年

學事報告

本
校
官

大
正
官

114
A



學事報告首言

縣ニ於テ沿道諸縣ノ學事實況ヲ視察ス可レトノ命ヲ
 蒙リ尔未沿道到ル処民間又ハ學務官吏等ニ就キ學事
 一般ノ有様ヲ取調ハタルニ見聞スル処別冊ノ通ナリ
 抑モ人民教育ハ一國ノ重事ニレテ政府文部省ヲ置キ
 學制ノ播布アリシ以來全國ノ教育實ニ其面目ヲ一新
 シ學問ノ行ハル、古來今日ノ如キ盛ナルハナキナリ
 然ルニ今此流行モ所謂説諭ヲ以テ之ヲ促シタルモノ
 多ク父兄ノ中心ニ學問ノ便益ヲ悟リ其子女ヲ誘テ入
 學セシメタル者ノ如キハ當時尙甚ク稀ナルニ似メリ
 其學問ノ便益ヲ知ラサル、實事ハ或ハ之ヲ父兄ノ頑
 愚ニ歸シ恬トシテ自省セサル、人モアル可レト雖モ



コハ自カラ信スルコトノ過大ニシテ人ヲ察スルコトノ明
ナラサルモノナリ人民何程ニ頑愚ナリト雖モ自己ノ
便益ヲ計ラサル者ナク自己ノ便益ヲ知ラサル者ナシ
未ダ學問ノ便益ヲ見ス故ニ之ヲ悦ブコトモ亦未ダ厚カ
ラサルモノカ

文部ノ學制ヲ始メ之ヲ模範トシテ編成シタル府縣ノ
學則ニ至ルマテ善ハ則善ナリト雖モ更ニ議ス可キノ
尺典ナレト云フ可ラス近日ハ實際適宜ノ教則ヲ設ル
ノ風漸ク各地方ニ傳播シ各府縣各區各校トモ次第ニ
其教則ヲ改メ各皆自己ニ最モ適當ノモノヲ求メント
スルカ故ニ民心ノ之ニ歸スルコトモ亦次第ニ厚カル可
シト雖モ氏惜ムラクハ學則ノ大体ニ於テ未ダ大失誤ア
ルヲ免カレサルカ如シ是他ニアラス大中小学ノ各目

ニ泥ニ全國ノ教育ヲ一大全備ノ結構ト見做シ之カ方
法ヲ設ケタルナリ大學ハ樹幹ノ如ク中小學ハ枝條ノ
如ク脈絡相聯續シテ相離ル可ラス小學ヲ卒業シテ中
學ニ入り中學ヲ卒業シテ大學ニ入り以テ初メテ一個
全備ノ人物ヲ造リ出スノ仕掛ケニレテ小學ニ於テ學
ヒ得タルモノハ中學ニ用アリ中學ニ於テ學ヒタルモ
ハ大學ニ用アリテ半生ノ脩學ニ一日モ其學ヲ別路
ニ徒費セシメサントス注意至レルカナト云フ可シ
然ルト雖モ滿天下ノ子女ヲレテ悉皆大中學ノ教育ヲ
受ケレム可キニ非ス又之ヲ受ケレムルヲ要セス其小
學ヲ卒業シ中學ニ入テ教ヲ受ル者ハ實ニ千百中ノ幾
人ニ過キス况ヤ中學ヲ卒業シテ又大學ニ入ル者ヲヤ
万分中ノ一二ノミ也ハ皆小學ノ教育ヲ卒テ直ニ各自

ノ産業ニ就フ者ナレ故ニ折角ノ注意モ彼ノ大中学生
ノタメニハ其効少ナカラサル可シト雖氏國中ニ充滿
シタル小学生徒ノタメニハ其不便實ニ堪工難キモ、
アリ即チ小学ニ在テ学ヒ得タル所ノモノ後羊大中ノ
学科ヲ學フノ時ニ方テ一モ必要ナラサルモノナタル
可シト雖氏如何セシ此衆子女ノ教育ハ小学ヲ限ニシ
テ永絶スルモノナレハ數年ノ後ニ至テ其用ヲ知ル、
暇アル可ラス故ニ此衆子女ヲ小学ニ於テ学ヒ得タル
識藝ハ之ヲ車ノ片輪ニ譬フ可シ全車ノ結構ニハ何程
必要ノ物ト雖氏獨リ此物ノシヲ所持シテ他ノ部亦ヲ
所持セサル片ハ百年ヲ待ツモ終ニ其用ヲ見ルコトナク
ル可シ果シテ所ノ如クナル片ハ何等ノ説論ヲ蒙ルモ
誰々十年ノ日月ヲ費シ其愛子女ノ為ニ生涯終ニ不用

タル可キ一隻ノ車輪ヲ購フ者アリシヤ思ハサル可ラ
サルナリ
現今学ニテノ實況或ハ前条ノ如キ弊アルヲ免カレス之
ヲ救フノ法ハ他ナレ大中小学ヲ區別シテ各自獨立ノ
モノトナシ其學問ノ程度ニコソ深淺アレ大中小学ト
モ各別ニ固有ノ性質ヲ具ハ小学ハ中学ノ豫備ニ非ス
中学モ亦大学ノ豫備ニ非スシテ各一個全備ノ教育ヲ
授ルモノトナスナリ譬ハ小学ニ於テハ下等ノ農工
高等カ日用欠ク可ラサル通俗ノ識藝ヲ授ケ中学ニ於
テハ中等社會ノ人民ニ必要ノ識藝ヲ授ケ進テ大学ニ
至レハ学士又ハ重職ノ官吏等最上ノ知識ヲ要スル者
ノミヲ教授スルノ場所トナスコトナリ
今一事学校ニ付論ス可キコトハ即チ知識ノ上達ノミ

ヲ求メテ身体、發育ヲ願サレ、ナリ元來体操ノ一科
ハ身体強健ノシメニ設ル所ナルニ到ル處、学校皆其
名、ミヲ存シテ一モ其實ヲ行フモノナク、筋骨ノ勁強
ヲ求ムルハ野蠻ノ陋風ナド、心得唯知識ノミ是求メ
テ身体ノ強弱、壽ハ之ヲ度外ニ置クモノ、如ク然リ、葦
路拜觀ノ群衆中ニ在テモ其顏色殊ニ蒼々然トシテ恰
モ日蔭ノ草花ヲ看シノ心地スル者アルヲ認ルキハ、間
ハスレテ皆其学校生徒タルヲ知ルナリ、豈痛マレキ有
様ナラスヤ抑一國ノ威力ハ各人筋骨ノ強弱ニ由テ進
退ス可ク、殊ニ徵兵募集ノ國制モアレハ此虛弱ノ民ヲ
集メテ、設國ノ用ニ供スルニ方リ何等ノ患害ヲ引出ス
モ測ル可ラス、豫メ慮ル所アリテ諸学校ノ体操ハ飽マ
テ注意ス可キナリ

右御巡幸沿道各地方、學事取調之報告書致進呈候ニ付
拙者共、意見申添候也

明治十一年十一月廿二日

中川 彦次郎

小 泉 信 吉

大政官少書記官谷森真男殿

大政官

小濱ノ兩所ニ在リ師範學校ノ分校トモ云フベキモノ
ナリ三校ヲ合シテ生徒ノ総數凡百七十名ナリ一ヶ年
ノ費額金八千圓文部省補助金ト縣稅ヨリ支出ス本科
ノ修業年限ハ二ヶ年ナレド別ニ六ヶ月ニテ速成スル
ノ法アリ

○小學校 各校通定ノ教則ヲ用フベシト諭告シタル
ニ付近來進々教則改正ヲ願出ル向モアリト管内就学
生徒ノ數ハ人口百分ノ六余ナリ

京都府

學事ハ世話ヨリ行爲ケリ著手以來年月モ久シケレバ
諸事頗ル整頓セリ

○中學校 西京ニ在リ校内ヲ英學獨乙學數學漢學ノ
四區ニ分ツ教師トシテ未人一ハ僅乙人一名雇入レア

リ
○小學師範學校 西京ニ在リ生徒百名余修業年限全
二ヶ年

○女學校 西京ニ在リ授業科目ハ數多クハ普通ノ
讀書習字算術及ヒ裁縫ヲ專トス科目中英學モアリテ
米國ノ女教師一人雇入レマリ生徒ノ數凡ソ二百五十
名

○小學校 西京市中ニ在ルモノハ頗ル盛大ナリ併シ
田舎地方ニハ未タ其風ヲ傳ヘサルモノカ管内就學生
徒ノ數ハ僅ニ人口百分ノ六余ナリ

二重縣

先年暴動ノ差響モアルモノト見ヘ學事ハ成ル可キ丈
ケ自然ニ任セントスルモノ、如シ

學事報告

石川縣

學事頗ル整頓注意ノ至レルヲ見ルニ足ル

○中學師範學校 金澤ニ在リ重ニ英書ヲ教授ス學問
ノ程度他府縣ニ比較スレハ稍高尚ナルニ近シ未人一
名教師トシテ雇入レマリ費額一ヶ年凡金六千圓縣稅
ヨリ支給ス生徒百二十名

○小學師範學校 金澤福井富山ノ三所ニ在リ三校合
シテ生徒ノ總數凡五百名過半ハ皆區務所ヨリ學費ヲ
支給スル或費生ナリ修業ノ年限本科ハ二ヶ年ト定ム
レ其速成ヲ求ルタム六ヶ月ニテ卒業セシムル法アリ
之ヲ別級生ト号ス當時卒業シ生徒中百分ノ九十五ハ
別級生ナリ

○小學女子師範學校 金澤福井富山ノ三所ニ在リ三校合シテ生徒ノ總數三百余名士族ノ女子多シ諸規則ハ男子師範學校ニ同シ

○小學校 小學校モ年々盛大ナリ生徒ノ數次第ニ増加ス越中ノ國ヲ除クノ外能登加賀越前ニテハ就學ノ生徒人口百分ノ十乃至十一余ニ居レリ授業ノ時間一日五時間ヲ通法ホスレバ田舎ニ到レハ二時間位ノモノモアリ

滋賀縣

學問ハ人民ノ自由ニ任カスト唱ヘ學校ノ沙汰モ必ナシ
○小學校 大津ニ在リ 御延幸中公所ノ行在所トナリシモノ即是ナリ傳習學校ト稱スルモノ其根

○小學師範學校 津ニ在リ生徒ノ數八十余名一个年ノ費額金八千圓又部省補助金ヨリ支出ス是迄卒業ノ生徒三百余名概シテ一个年以下修業ノモノナリ
○小學校 追々ニ進歩ノ模様ナリ當時管内就學生徒ノ數ハ人口百分ノ五余ナリ

岐阜縣

諸教則モ民情ニ適ルヲ旨トシ學事モ亦次第ニ進歩ス
○中學校 岐阜ニ在リ生徒ノ數七十名諸事次第ニ緒ニ就ク
○小學師範學校 岐阜ニ在リ修業年限二ケ年ノ常則ナル氏別ニ六ケ月ニシテ速成スルノ法アリ生徒數凡百名校費一个年金四千五百圓

○小學校 教則漸次改正アリ管内就學生徒ノ數ハ人口百分ノ八十余ナリ

愛知縣

學事ハ未タ格別ノ進歩ヲ見ス但シ廳下ハ以前文部省直轄ノ諸學校モアリシ土地ナレバ尚其餘澤ノ在ルヲ見ル

○中學校 名古屋ニ在リ舊文部省ノ英語學校ヲ引繼キタルモノナリ教師トシテ米人一人雇入レアリ諸事前日ノ如ク繁盛ナラズト云フ校費一个年金六千圓

○小學師範學校 名古屋ニ在リ舊文部省ノ師範學校ヲ引繼キタルモノナリ當時生徒ノ數百七十名校費一个年金九千六百圓

○小學校 教則ハ各地ノ適宜ニ任スルノ風アリ管内

就學生徒ハ人口百分ノ五余ナリ

静岡縣

諸教則次第ニ改良シ學事次第ニ進歩ス

○中學校 沼津並山静岡濱松ノ四ヶ所ニ在リ沼津ヲ除クノ外ハ学科頗ル近淺辛ウレテ中學ノ名ニ稱ノ

○小學師範學校 静岡ニ在リ生徒ノ數八十余名校費一个年金六千圓

○女學校 静岡ニ在リ生徒ノ數六十余名校費一个年三百圓ニ滿タズ

○小學校 小學教員ヲシテ時々諸事ヲ討議セシメ漸次適應ノ教則ヲ用フ管内就學生徒ノ數ハ人口百分ノ六余ナリ

神奈川縣

